

山形・史跡山形城跡

やまがたじょう

遺構として二一本の橋脚柱が現存している。木簡は、大手橋南側の堀内埋土より一点出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) $\frac{1}{2}$ 尺

990×33×8 061

7	6	5	4	3	2	1
遺跡及び木簡出土遺構の概要	遺跡の年代	遺跡の種類	調査担当者	発掘機関	調査期間	所在地
遺跡及び木簡出土遺構の概要	中世・近世（一六世紀）一九世紀	城郭跡	五十嵐貴久	山形市教育委員会	二〇〇四年（平16）七月～一月	山形市霞城町

扁平な板材で、下端部は切面であるが、上端部は二次的な破断面を呈し、本来はさらに上方に延伸していた可能性がある。下端面から最大〇・六cmのところに細い線が引かれ、そこから三〇・三cm離れた箇所に黒丸（直径約〇・五cm）が付され、その下部に「一尺」

その後の山形城は譜代大名の交替地となり、水野家の（五万石）で明治に至る。

(五十嵐貴久)

(山形)

今回の調査地点は、本丸と二ノ丸をつなぐ大手橋地点である。大手橋は木橋で、